

## ■全体の概要

居宅支援や外出支援などについて、設立以後 10 数年ほぼ毎年、利用が伸び続けてきたが、昨年度からは、前年度を若干下回っている(利用時間基準)。ヘルパー数については、それ以上に減少しており、人材不足の課題は大きい。

一方、以前より検討を重ねてきたシェアハウスの事業を、いよいよ本格的に開始できたことは大きな成果である。

## ■居宅支援事業・外出支援事業・福祉輸送

必要に応じて、24 時間、365 日の支援を実施している。日常的な生活の支援だけでなく、趣味の活動の支援、旅行の支援など、様々な部分で関わることが出来た。

転居される利用者さんの多い1年であったが、転居先を探すところから支援に関わることもあり、あらためて住居探しの困難さに気付かされた。また、転居にともない、掃除、転居、部屋の模様替えなど、手伝うことも多かった。

ヘルパー業務の内外を問わず、何かと相談を受けることも多い(パソコンやネット関連、蜂の巣駆除など)が、可能な限り対応している。当事業所の特徴的な部分であると思う。

## ■相談支援事業

当事業所含め、既存の(市の委託も受けている)相談支援事業所は、相談員 1 人あたり 50~70 名を超える計画相談を担当しており、限界に達しているため、基本的に新たな計画相談の利用は受け付けていない。新規の相談者の計画作成については、比較的新しい(余裕のある)指定特定相談支援事業所につなぎ、一般相談として関わるようにしている。主な成果や事例は以下。

・夜間支援の課題…夜間も含め支援を要するプランに対し、審査会では、その必要性が認められたにも関わらず、市より大幅に時間を削ったプランが提示される。何度かの交渉を経ても、夜間支援の必要性の見解のズレは埋まらないが、ある一定の支給決定の中で、ひとまず妥協。支給時間を週3~4回で利用してしまうため、他の日は帰省している。

・資源不足の課題…ヘルパー見つからず、やむなく相談員がつなぎで介助する。通所決まるも、送り出し&受け入れのヘルパー態勢とれず開始できない。現在のヘルパーに不満だが、他の事業所の手配付かず、我慢を続ける。ヘルパーが退職、怪我などの際に、交代要員がいないなど、脆弱な体制の事業所が多い。など課題多い。

・4~5月頃は進級などにより不安定な方の相談多い

・当人と家族の思いのギャップ…入所施設退所後の生活について、当人と家族の思いの差が大きい事例が多い。「自力で通所できる×てんかん発作が心配」、「一般就労できる×とても無理」など。相談員としては当人の希望に合わせて動く中で、当人が落としどころを見つけるのを待つ方針だが、家族からは「余計なことをしないで欲しい」などとやっかまれることも多い。

## ■研修開催事業

より多くのヘルパーを確保するため、重度訪問介護従業者養成研修を開催した。従前より、講師・講師補助として障害当事者の協力を得ており、講義、実習共に、より実践的な内容になるよう検討を重ねつつ、幅広い障害当事者の協力を得ながら、実施している。

## ■交流事業の開催

一昨年度より開始した「懐メロ喫茶 ばばるで」について継続して実施している。毎回、4~15 名程度の参加者があり、自由に出入りがある。開催時は、常勤スタッフ一名と、ボランティアにより運営しているが、参加者が自主的に手伝って下さることも多い。参加者同士、日常とは違った交流をされたり、個々の時間を楽しむなど、様々に過ごされている。稀ではあるが、近所の方が通りがかりに立ち寄って下さることもある。

## ■シェアハウス運営事業

今年度より、シェアハウスの運営を開始した。4月当初より1名、4月後半よりもう1名が入居者されている。体験室については、徐々に活用を進めている。交流事業については、入居者と関係者での食事会を何度か開催した。

■ほか、広報・啓発事業、各種研修への参加・実施など

今後の方針

■障害者雇用の促進

■新規事業の検討

まだ明らかには出来ませんが、新たな事業展開を考えています。